

日向灘より得られたフサカサゴ科魚類2種

本村浩之・岩槻幸雄

近年、著者らは、宮崎県日向灘におけるフサカサゴ科、オニオコゼ科、ハオコゼ科、およびイボオコゼ科魚類相の予備的調査を行い、それぞれ12属21種、3属5種、2属2種、および3属3種の合計20属31種を確認した(Motomura & Iwatsuki, 1997)。その後、同地より、新たにフサカサゴ科オニカサゴ属のセムシカサゴ *Scorpaenopsis diabolus* (Cuvier, 1829) とウルマカサゴ *S. oxycephala* (Bleeker, 1849) の2種を得たので、ここに記載、報告する。

計数・計測方法は Hubbs & Lagler (1947)、頭部の棘の名称は尼岡(1984)に従った。本報告に用いた標本は全て宮崎大学農学部動物生産学科(MUFS; Miyazaki University, Fisheries Science)に保存されている。

稿を進めるにあたり、標本の入手に協力頂いた宮崎県南郷町南郷漁協の中野義秋組合長、販売課の倉尾孝文氏、および同漁協所属の仲買人の門川安秀

氏に謹んで感謝の意を表する。また、採集調査の際にお世話になった宮崎大学の長野直樹氏、イクバル・ブルハマディン氏、臂 和子女史、および大藪美香女史に深謝する。

セムシカサゴ

Scorpaenopsis diabolus
(Cuvier, 1829)
(Figs. 1)

材 料

4 個体(標準体長170~190 mm): MUFS 14015、1 個体、標準体長170 mm (全長219 mm)、1997年9月12日; MUFS 14145、1 個体、標準体長172 mm (全長221 mm)、1997年10月30日; MUFS 14735、16395、2 個体、標準体長184~190 mm (全長235~246 mm)、1998年1月22日。全ての標本は宮崎県南郷町目井津大島西部、水深8 m 以浅において小型定置網(樹網)により採集された。

記 載

背鰭12棘9軟条、臀鰭3棘5軟条、胸鰭鰭条数18、腹鰭1棘5軟条、鰓耙数13 (切り株状のものを含む)。

標準体長に対する各部位の相対比を

以下に示す。頭長2.1~2.2、体高2.2~2.5、胸鰭基部の体幅3.0~3.2、眼径13.6~14.7、两眼間隔幅8.5~9.2、頭部眼後長3.7~4.0、吻長5.8~7.1、上顎長3.6~3.9、最長背鰭棘長(第3・4棘)7.5~8.1、最長臀鰭棘長(第2棘)6.4~7.1、胸鰭長3.1~3.9、腹鰭長3.1~4.0、尾柄長5.6~6.1、尾柄高7.7~7.8。

胸鰭の縁辺に欠刻がない。背鰭起部下の体背部は著しく隆起する。眼隔域は深く窪み、1対の額棘がある。眼窩下縁域は著しく窪む。主鰓蓋骨上方棘の後端は2~3尖頭。側線有孔鱗は皮弁を有する。

生鮮時の体色は Fig. 1 を参照。

10%ホルマリン固定後、70%エチルアルコール中に保存した標本(MUFS 14015、14145、14735、および16395に基づく)の体色は、体は全体的に青みがかった黒色で、腹部は灰色がかった白色。生鮮時、固定時ともに、胸鰭内側上部に眼径より大きい明瞭な1黒斑

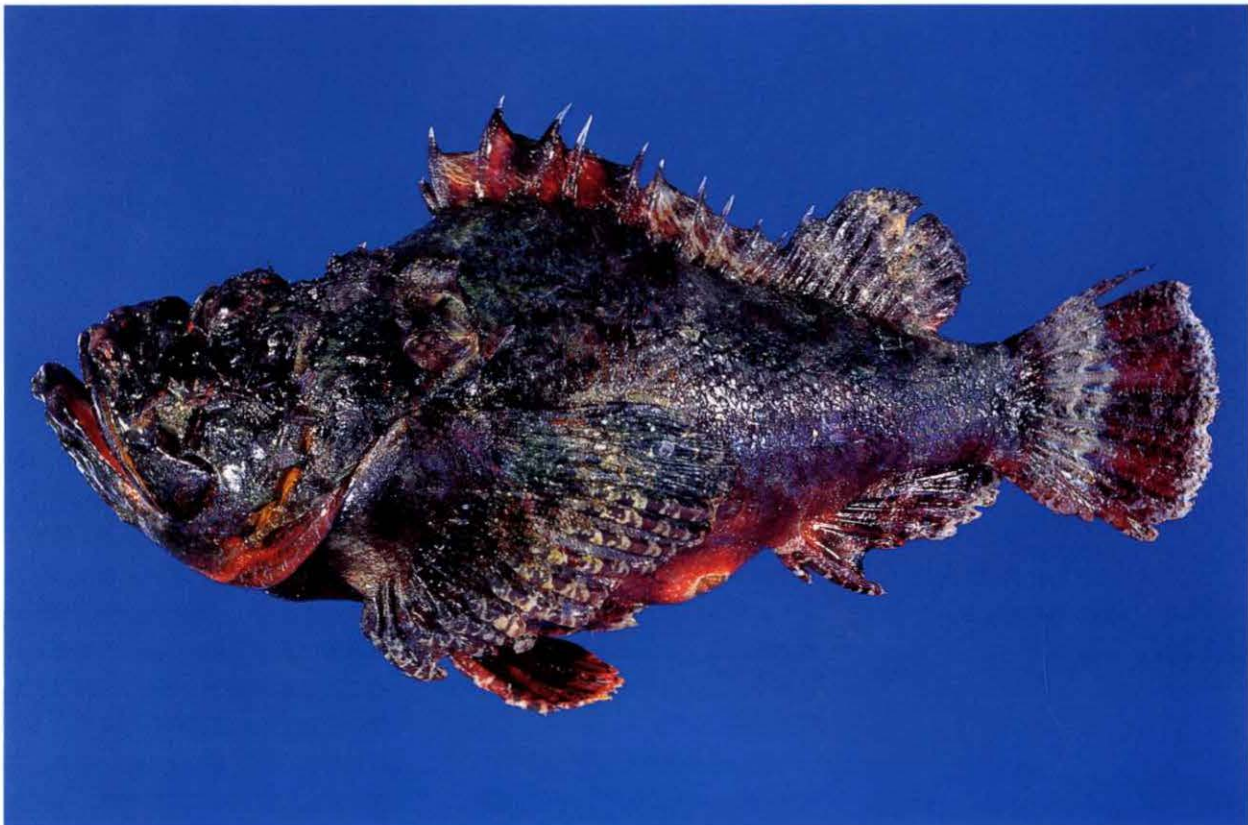


Fig.1. セムシカサゴ *Scorpaenopsis diabolus*, MUFS 16395, 190 mm SL, Meitsu, Nango, Miyazaki, Japan. Photo by H. Motomura.

があり、胸鰭内側基部には数個の黒斑がある。

分 布

本種はインド・太平洋域に広く分布し、その分布範囲は本属魚類の中で最も広い (Eschmeyer & Randall, 1975)。日本では小笠原諸島 (Randall *et al.*, 1997)、琉球列島 (中坊, 1995; 石田, 1997)、および宮崎県 (本報告) に分布する。本報告は、標本に基づく本種の北限記録となる。

備 考

本標本は、Eschmeyer & Randall (1975)、中坊 (1995)、および石田 (1997) の *Scorpaenopsis diabolus* の記載や図によく一致した。

本種は背鰭起部下の体背部が著しく隆起する特徴が、同属の *S. gibbosa* (Bloch et Schneider, 1801)、*S. macrochir* Ogilby, 1910、およびサツマカサゴ *S. neglecta* (Temminck et Schlegel, 1844) に類似する (Eschmeyer & Randall, 1975) が、胸鰭内側上部には1黒斑があり、その縁辺には黒色帯がないこと (*S. gibbosa* では1黒斑と黒色帯

の両方を持つ; *S. macrochir* とサツマカサゴでは黒色帯だけを持つ)、胸鰭鰭条数が通常18であること (*S. gibbosa* では通常18; *S. macrochir* とサツマカサゴでは通常17) などの特徴によって容易に識別できる (Eschmeyer & Randall, 1975; 中坊, 1995; 石田, 1997)。

Eschmeyer & Randall (1975) や Eschmeyer (1986) は、本種の原因記載が Cuvier *in* Cuvier & Valenciennes (November, 1829) が記載した *Scorpaena diabolus* であるとしているが、Cuvier (March, 1829) の *Scorpaena diabolus* が先取権を持つ (Eschmeyer, 1998a)。なお、Eschmeyer & Randall (1975) や Eschmeyer (1986) は Cuvier *in* Cuvier & Valenciennes (1829) が記載した学名を *Scorpaenopsis diabolus* としているが、*Scorpaena diabolus* が正しい。また、Eschmeyer (1998b) に掲載されている Cuvier (March, 1829) のページ構成は同書の初版のものであり、本報告のものが正しい。

Kuiter (1996) は本種の種名を *diabola*

と訂正しているが、*diabolus* はラテン語で悪魔を意味する主格単数の名詞なので、この訂正は誤りである。

ウルマカサゴ

Scorpaenopsis oxycephala
(Bleeker, 1849)
(Figs. 2)

材 料

9 個体 (標準体長 172~281 mm): MUFS 14065, 1 個体、標準体長 281 mm (全長 355 mm)、1997年9月20日; MUFS 15026, 1 個体、標準体長 223 mm (全長 284 mm)、1998年4月13日; MUFS 15496, 1 個体、標準体長 218 mm (全長 273 mm)、1998年6月1日; MUFS 16338, 1 個体、標準体長 203 mm (全長 258 mm)、1998年9月2日; MUFS 16392~16394, 3 個体、標準体長 172~225 mm (全長 224~288 mm)、1998年9月14日; MUFS 16416~16417, 2 個体、標準体長 185~201 mm (全長 237~258 mm)、1998年9月26日。全ての標本は宮崎県南郷町目井津大島西部、水深 8 m 以浅において小型定置網 (樹網) により採集された。

記 載

背鰭12棘 9 軟条、臀鰭 3 棘 5 軟条、胸鰭鰭条数 18~19、腹鰭 1 棘 5 軟条、鰓耙数 15~17 (切り株状のものを含む)。



Fig.2. ウルマカサゴ *Scorpaenopsis oxycephala*, MUFS 15026, 223 mm SL, Meitsu, Nango, Miyazaki, Japan. Photo by H. Motomura.

標準体長に対する各部位の相対比を以下に示す。頭長2.3~2.4、体高2.8~3.2、胸鰭基部の体幅4.0~4.5、眼径13.4~15.1、两眼間隔幅14.1~18.3、頭部眼後長4.6~5.0、吻長6.3~6.9、上顎長4.2~4.4、最長背鰭棘長(第3棘)5.3~5.9、最長臀鰭棘長(第2棘)6.6~6.8、胸鰭長4.0~4.2、腹鰭長4.3~4.5、尾柄長5.7~6.1、尾柄高8.0~8.7。

胸鰭の縁辺に欠刻がない。眼隔域は深く窪む。眼窩下縁域は著しく窪む。背鰭第3棘長は第11棘長の約3倍。

体色

生鮮時の体色はFig. 2を参照。

10%ホルマリン固定後、70%エチルアルコール中に保存した標本(MUFS 14065、15026、および15496に基づく)の体色は、体は全体的に茶色みがあった黒色で、腹部は茶色があった白色。生鮮時、固定時ともに胸鰭内側上部に褐色斑がある。また、胸鰭内側基部上方に眼径とほぼ同大の1黒斑がある。

分布

本種はインド・太平洋域に散在的に分布する(Eschmeyer, 1986)。日本では小笠原諸島(Randall et al., 1997)、琉球列島(中坊, 1995; 石田, 1997)、および宮崎県(本報告)に分布する。本報告は標本に基づく本種の北限記録となる。

備考

本標本はEschmeyer (1986)、中坊(1995)、および石田(1997)の*Scorpaenopsis oxycephala*の記載や図によく一致した。

本種は同属のオニカサゴ*S. cirrhosa*(Thunberg, 1793)やミミトゲオニカサゴ*S. sp.*に類似するが、胸鰭内側上部にのみ褐色斑があること(オニカサゴでは褐色斑が胸鰭裏側上部と僅かに下部におよぶ; ミミトゲオニカサゴでは褐色斑が胸鰭内側全体におよぶ)、背鰭第3棘長は第11棘長の約3倍であること(オニカサゴでは第3棘長は第11棘長の約2倍以下; ミミトゲオニカサゴでは第3棘長は第11棘長の約3倍)などの特徴によって識別できる(中坊,

1995; 石田, 1997)。

Eschmeyer (1986)は本種の胸鰭軟条数を19~20としており、中坊(1995)と石田(1997)は18~20(通常19)としているが、本報告で用いた9個体の中で、18軟条を持つものが8個体あった。これらの相違は地理的変異であると思われる。

なお、Eschmeyer (1986)とKuitert (1996)は、本種の最大全長を300 mmとし、石田(1997)は250 mmとしているが、本報告に用いた標本の最大個体の全長は355 mmであり、本種は彼らの推定値よりも大きなサイズまで成長することが明らかとなった。

比較標本

オニカサゴ: MUFS 12412、標準体長156 mm、1996年8月5日; MUFS 12811、標準体長193 mm、1997年1月25日; MUFS 13467、標準体長231 mm、1997年6月9日。サツマカサゴ: MUFS 12874、標準体長180 mm、1997年4月7日; MUFS 12892、標準体長121 mm、1997年4月7日; MUFS 12897、標準体長144 mm、1997年4月12日。ミミトゲオニカサゴ: MUFS 12907、標準体長170 mm、1997年4月14日; MUFS 13470、標準体長167 mm、1997年6月9日; MUFS 13507、標準体長114 mm、1997年6月12日。全ての標本は宮崎県南郷町目井津大島西部において小型定置網(樹網)により採集された。

引用文献

- 尼岡邦夫. 1984. フサカサゴ科. Page 296 in 益田 一・尼岡邦夫・荒賀忠一・上野輝彌・吉野哲夫(編). 日本産魚類大図鑑. 和文版. 東海大学出版会, 東京.
- Cuvier, G. 1829. Le Règne animal, distribué d'après son organisation, pour servir de base à l'histoire naturelle des animaux et d'introduction à l'anatomie comparée. 2nd ed. Vol. 2. xv + 406 pp.
- Cuvier, G. & A. Valenciennes. 1829. Histoire naturelle des poissons. Vol. 4. xxvi + [2] + 518 pp., pls. 72-99. Paris.
- Eschmeyer, W. N. 1986. Scorpaenidae. Pages 463-478, pls. 25-28 in Smith, M. M. & P. C. Heemstra, eds. Smiths' sea fishes. Macmillan South Africa, Johannesburg.
- Eschmeyer, W. N., ed. 1998a. Catalog of fishes. Vol. 1. Introductory materials, species of fishes A-L. 958 pp. Calif. Acad. Sci., San Francisco.
- Eschmeyer, W. N., ed. 1998b. Catalog of fishes. Vol. 3. Genera of fishes, species and genera in a classification, literature cited and appendices. 1821-2905 pp. Calif. Acad. Sci., San Francisco.
- Eschmeyer, W. N. & J. E. Randall. 1975.

The scorpaenid fishes of the Hawaiian Islands, including new species and new records (Pisces: Scorpaenidae). Proc. Calif. Acad. Sci., 40: 265-333.

Hubbs, C. L. & K. F. Lagler. 1947. Fishes of the Great Lakes Region. Bull. Cranbrook Inst. Sci., (26): i-xi + 1-186, figs. 1-251, 26 unnumbered col. pls., with a map.

石田 実. 1997. フサカサゴ科. Pages 189-209 in 岡村 収・尼岡邦夫(編・監修). 日本の海水魚. 山と溪谷社, 東京.

Kuitert, R. H. 1996. Guide to sea fishes of Australia. vi + 433 pp. New Holland Ltd., London. vi + 433 pp.

Motomura, H. & Y. Iwatsuki. 1997. A preliminary report of scorpaenid, synanceiid, tetrarogid and aploactinid fishes in Miyazaki waters, southern Japan. Bull. Fac. Agr., Miyazaki Univ., 44: 127-138.

中坊徹次. 1995. フサカサゴ科. Pages 491-518, 1295-1298 in 中坊徹次(編). 日本産魚類検索: 全種の同定. 初版補訂第2刷. 東海大学出版会, 東京.

Randall, J. E., H. Ida, K. Kato, R. L. Pyle & J. L. Earle. 1997. Annotated checklist of the inshore fishes of the Ogasawara Islands. Nat. Sci. Mus. Monogr., (11): 1-74, pls. 1-19.

(もとむらひろゆき: 宮崎大学、鹿児島大学大学院連合農学研究科; いわつきゆきお: 宮崎大学農学部動物生産学科水産増殖学講座)

Abstract

Two records of scorpaenid fishes from the Hyuga Nada, southern Japan

Hiroyuki Motomura & Yukio Iwatsuki (HM: Miyazaki University, the United Graduate School of Agricultural Sciences, Kagoshima University, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan [E-mail: a0c116u@cc.miyazaki-u.ac.jp]; YI: Department of Animal Science, Faculty of Agriculture, Miyazaki University, 1-1 Gakuen-kibanadai-nishi, Miyazaki 889-2192, Japan [E-mail: a0c102u@cc.miyazaki-u.ac.jp])

Scorpaenid fishes, *Scorpaenopsis diabolus* (Cuvier, 1829) and *S. oxycephala* (Bleeker, 1849) were collected from the Hyuga Nada, southern Japan and described on the basis of four (170-190 mm SL) and nine specimens (172-281 mm SL), respectively. These specimens represent the northernmost record of each species.